

キュウリ栽培における省農薬防除技術

福島県農業試験場 病理昆虫部

平成14年度福島県農業試験場試験成績概要

1 部門名

野菜－キュウリ－病害虫防除

分類コード03－01－23000000

2 担当者

平子喜一・堀越紀夫・高倉 慎・中村 淳

3 要旨

キュウリ病害虫の発生状況に応じたモニタリング防除を行い、慣行の定期防除と比較し、殺菌・殺虫剤の2割削減の可能性を検討した。

- (1) うどんこ病は定植時より発生し、モニタリングによる薬剤散布では十分に発生を抑える事ができなかった。
- (2) モニタリング防除区で、7月中旬のべと病発生は小康状態と判断されたため、薬剤散布を控えた結果、その後の発生を十分に抑えることができなかった。
- (3) アブラムシ類の発生は、6月上旬の調査開始時より認められたが、発生密度は低く、モニタリング防除区においては、8月下旬まで薬剤散布は不要であった。
- (4) ハダニ類の発生密度は、7月下旬以降急激に上昇した。モニタリング防除区、定期防除区共に7月下旬及び8月中旬に殺ダニ剤を散布したが十分な効果は得られず、さらに8月下旬に追加散布を行った。
- (5) モニタリング防除区は定期防除区に比較して、防除回数を2回(14%)、農薬の延べ有効成分数を10成分(殺菌剤4成分、殺虫剤6成分・34%)削減できた。

以上の結果、病害ではうどんこ病、べと病の発生が問題となり、これらの病害は一旦蔓延させると抑えることは難しく、薬剤散布を削減することは困難と考えられた。害虫ではモニタリング防除により、アブラムシ類対象の薬剤散布が大幅に削減できた。

モニタリング防除により、農薬の延べ有効成分数で34%削減できたことから、慣行防除に対する農薬の2割削減は達成できると考えられた。

4 その他の資料等

なし